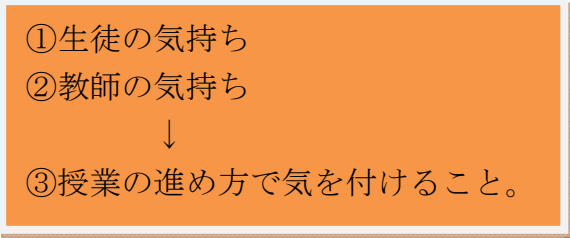


- 
- ①生徒の気持ち
②教師の気持ち
↓
③授業の進め方で気を付けること。

① 生徒の気持ち

3年生は、1月18日に授業が終了したにもかかわらず、大学受験期間中であり、国公立の後期日程の試験が終了する3月まで、毎日学校に来て勉強等を行わなければならない。試験直前の時期ということで、気が抜けない・ピリピリしている状況である。

大学受験をする生徒が多いので、司法書士の資格については、興味・憧れがあるのではないかと。司法書士に会うこと、話すことは貴重な体験になるのではないかと。

→ 授業のような内容ではなく、実務に沿った内容説明をすると効果的ではないかと。司法書士は悪質商法等についてどう考え、どのように解決していくのかを知りたいのかもしれない。

② 教師の気持ち

毎年3年生の学年主任が担当ということである。学年主任は毎年替わり、教師は学年ごとに持ち上がっていくようである。

進学校の先生は、司法書士という資格を良く知っているようだ。生徒の進路指導をする上で難易度の高い「司法書士」という資格について話す機会もあるのだろう。そのため、生の司法書士を素材として使えるということで、とても気を遣っているようだ。

ただし、「司法書士」の実際の仕事内容については、あまり知らないものと思われる。

この時期の進学校の先生は、課外授業等で受験生をサポートしなければならないと、とても急がしそうである。加えて、3月1日に行われる卒業式の

準備もしなければならず、大変である。

未成年者法律教室は、他の時期ではやっていないのかとの問い合わせを受けた。学校側は、書士会側にいろいろなことを聞きたいようである。メールのように気軽にコミュニケーションをとる手段がないと感じているようだ。

③ 授業の進め方で気を付けること。

- ・ 実体験を中心にする。
- ・ プレゼンテーションソフト（動画）は部分的使用にとどめる。
- ・ プレゼンテーションソフトの静止画像集を作る。
- ・ 子供たちが将来、気をつけるべきポイントを教える。